

アートプロジェクト

未定

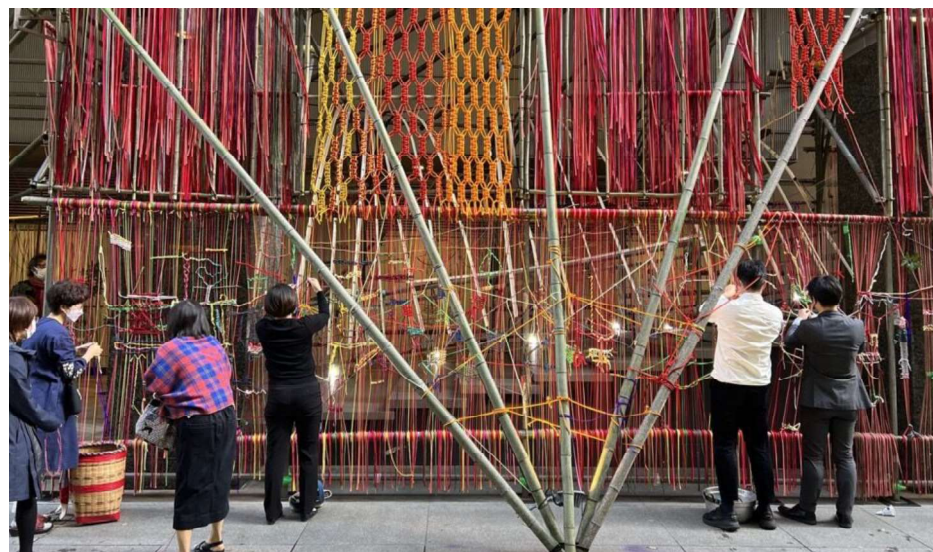
「紐」というシンプルな素材は、自由さと無限の可能性を秘めている。紐を用いた空間ドローイングや編み込みを通じて、新たな場を創出するプロジェクトを展開した。本作品では、既存の建築空間と共生する形で竹や鉄骨の仮設体を設置し、風や太陽の力を活かした装置と組み合わせながら、参加者が紐を結び、編むことで作品を完成させる。

これまで東京やメルボルン、クイーンズランドなど多様な環境で展開されてきたこの作品は、場所ごとに異なる意味や価値を生み出した。東京では大きなアート神社のような空間となり、メルボルン郊外では地域のトルコ人家族の憩いの場として機能し、クイーンズランドでは地元住民が交流する場となった。こうした多様な体験が生まれる背景には、参加者自身が紐を通じて作品の一部となり、空間と時間を共有するプロセスがあるからである。

特に、ある小学校での長期プロジェクトでは、子どもたちがクラスメートとこれまでにない深い対話を交わし、共に編み込む体験を通じて新たな関係性を築くことができた。このプロセスは、精神科医・斎藤環氏の提唱する「オープンダイアログ」にも通じるものであり、無理に共感や同意を求めることなく、ただ共に場を共有することの重要性を示している。

即興性と日常素材を活かし、異次元的な非日常空間を創り出すことを目指す。本プロジェクトでは、千葉の地域と連携し、千葉国際芸術祭の理念と共鳴しながら、新たな創造の場を築いている。

市民参加のかたち：制作参加・ワークショップ・展示鑑賞



Slow Art Collective (Chaco Kato & Dylan Martorell) (日本・オーストラリア)
スロー・アート・コレクティブ (加藤チャコ&ディラン・マートレル)

オーストラリアのメルボルン在住の加藤チャコとディラン・マートレルが主宰するアートコレクティブ。2009年より、環境に負荷の少ない身近な素材を駆使して、観客とともに完成させていくアートを展開している。コミュニティ、環境、自然、街、素材とのコラボレーションを大切に、それがゆっくりと社会の中に浸透し成長していくようなアート活動のあり方を模索している。タラワラ美術館、ヌーサ美術館、マッククレランド野外彫刻美術館、モーニントン半島美術館、シドニーパワーハウスミュージアム、Mバビリオン、ビクトリア国立美術館、ガートルード・コンテンポラリー、シンガポールのエスプラネード・シアターズ・オン・ザ・ベイ、その他地域の学校、アートフェスティバル、ショッピングセンターなど多岐にわたる場所で制作活動を展開している。